なかま No.92

発行：ボーイスカウト町田 13 団広報　　2021 年 9 月夏号

『ボランティアの団体として』

育成会会長　下山田　弘

育成会会員の皆様におかれましては、日頃の１３団への御尽力に感謝申し上げます。御尽力の具体的な方法は、リーダー、団委員等の役務に就いて頂いて御奉仕頂いたり、１３団の活動「団、隊の行事や模擬店等の収益活動」にご協力頂く事ですが、財政面で１３団を支えて頂く事もあります。その具体的な方法は育成会費の納入ですが、今回コロナ禍で活動が思うように出来ず、１３団始まって以来、育成会費の今年度下期の減免措置をとりました。
幸い前年度からの繰越金があり、かろうじてやり繰り出来ました。活動が全く出来なくとも、倉庫の借り賃、トラックの維持費、町田地区への分担金等、年間で６０万円程の必要経費が掛かります。
どのような団体でも、維持運営していく為の資金は必要です。
１３団は特別なスポンサーが付いていたり、大口の寄付があるわけでなく、皆様からの育成会費で賄っております。その点を充分にご理解頂き、今後共御支援のほどよろしくお願い致します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

『Pinch brings opportunity！』

団委員長 田地　司

コロナ禍、２度目の夏が終わろうとしています。「今年こそは」とばかりに、夏キャンプを実施すべく準備を整えていました。皆さんに、８月 12 日からの夏キャンプ実施を周知した矢先に緊急事態宣言が再発令されすべての活動の延期、自粛通達が連盟から発出されました。ボーイスカウト東京連盟を構成する団の一つとして、連盟方針に逆らってまで活動を実施することはできないことはご理解いただけると思います。
しかし、団委員長という立場を離れ、一人のスカウターとして考えると連盟の方針にはどうしても釈然としない面があります。我々の活動は野外を基本としています。十分な感染対策を施すことはそれほど難しいこととは思えません。
もちろん相手は目に見えない手強い敵です。どんなに感染対策を実施しても100%の保証はできません。しかしながら、野球やサッカーなど、そこで声を張り上げ活動している少年達を身近に見るにつけ、なぜボーイスカウトだけが活動を自粛しなければならないのか、どうしても釈然としないのです。「ボーイスカウト活動でクラスターが発生したら社会的な影響が大きい」とか「こんな時

期にボーイスカウトが集団で活動している」云々、そんな批判が連盟に寄せられるからとか・・・
だったら、コロナの収束後を見据え、連盟あげてこの機会にボーイスカウトの活動を PR したらどうなのかと思います。「Scouting Never Stops！」というお題目だけではなく、コロナが収まったら我々はこうするんだ、というアピールをしてはどうなのでしょうか？
　さて、団委員長の立場に戻って、皆さんにもうしばらくの辛抱をお願いするとして、再開後の活動に大いに思いを馳せてみましょう。この号が発行されるころには、新年度のプログラム編成が終わって皆さんに今年度の活動内容をお披露目していることでしょう。失った時間は取り戻せませんが、お釣りがくるくらいにしっかり活動しましょう。
ピンチのあとにチャンスあり！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

『RS 隊だより』

RS 隊隊長　木村　孔紀

　今年も相変わらずスカウト活動ができない日々が続いています。この状況下でも今年の４月に４人の新人 RS が上進してきてくれたのは喜ばしい限りです。
　コロナ禍での主な隊活動は去年同様オンライン会議を開いて、今後の活動計画を立てています。VS 以上になると活動計画をスカウト自身で立てるようになるので、オンラインの活動でもできることはたくさんあります。
　しかし最上級スカウトの RS が VS と同じでは困ります。「自分たちの活動」を考えるのが VS とするならば、それから上進した RS は「みんなの活動」を考えるようになります。自分のための活動を考えるのは、実はそれほど難しいことではありません。自分がやりたいこと、身につけたい技能は自分でよく分かっているからです。一方、後輩のための活動を考えるのはまた違った能力が必要となります。特に BVS から VS まで幅広い年代が活動する13団での団行事は、それぞれの隊の特性や難易度に合わせるのは色々と知識や工夫が必要となってきます。
　新人を加えた RS 隊は５月キャンプと夏キャンプの２大団行事の計画を任せていただきました。キャンプ地の下見から全体プログラムの立案までをこなし、団協の場で団委員長や各隊隊長の前でプレゼンを行いました。まだまだ経験も浅く、厳しいお言葉を頂くこともありましたが、彼らなりに後輩スカウトのためになる活動を考えてくれていたと思います。

残念ながらどちらのキャンプも緊急事態宣言と重なり、開催を見送ることとなってしまいました。彼らの考えた活動を保護者の皆様や各隊指導者、何より後輩スカウトに披露できないのはもったいないと感じております。しかし今回考えた活動も無駄にせず、より精度を上げて次の機会に活かせたらと思います。

冒頭ではオンラインでもできることは多いと申しましたが、やはりスカウト活動は野外でこそ真価を発揮します。いずれ野外活動が再開されたとき、すぐにでも活動ができるよう「そなえよつねに」の精神で準備してまいります。最後になりましたが、この状況下でも皆様のスカウト活動へのご理解ご協力に感謝申し上げるとともに、活動再開後のスカウト活動を楽しみにお待ちいただければと思います。

＜RS 隊のスカウトたち＞

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

『VS 隊だより - 今一度スカウト活動の本質を問う - 』

VS 隊隊長　本田　裕輔

スカウト活動へのご理解、ご協力ありがとうございます。

また緊急事態宣言が発令され、とうとう今年も夏キャンプを実施することができませんでした。夏キャンプ以外でも VS 隊は実際の活動ができていません。それでも緊急事態宣言がまん延防止等重点措置に代わった時期に夏キャンプの下見を兼ねた RS 隊との合同キャンプや小野路での BS 隊支援を行うことができました。やはり Web 会議ではわからないスカウトの表情や様子を確認でき、充実した時間を過ごせました。まだまだ予断を許さない状況ですが、機会を見つけ十分に予防対策に努めながら、極力実活動ができる機会を見つけて

いきたいと思っています。
　さて、コロナ禍という活動が制限される状況が長引く中、私自身スカウト活動の本質とはいったい何なのか考える時間が増えました。ボーイスカウトという組織はスカウト数が減ったとはいえ、世界的な社会的に認められた団体です。そんな組織だからこそ連盟としては活動を自粛する方針を出さざるを得ないことは十分に理解できます。しかし、団という現場では活動できないことにより一部の保護者の期待に応えられず、新しいスカウトを獲得することもかないません。そういったボーイスカウトという組織のマイナス面ばかりが感じられてしまいます。それではプラスの面を生かした活動とはいったい何なのか、そのプラスの面を社会にアピールする事はできているのかということに目を向けるようになりました。ボーイスカウトの制服が世間から憧れでみられるようにするための活動とは、キャンプやハイキングなど自己研鑽だけでなく、ボーイスカウトだからできる社会への取り組みを自主性をもって参画できるよう指導していきたいと思います。まずは、スカウト自身が検討した募金活動や、災害ボランティアセンターの立ち上げ協力ができないかの検討を進めます。
保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

『BS 隊だより』

BS 隊隊長　宮本　隆太郎

　新型コロナの発生から、はや1年半。想定外の状況は未だに続いており、キャンプどころか日帰りの活動もできない現状は大変残念ですが、スカウトはじめご家族の皆さんが無事に過ごされていることが何より幸いです。お天気と一緒で、自分でどうすることもできないことは素直にあきらめて受け入れるしかありません。たとえ雨が降ってもいつかは必ず晴れます。必ず平穏な日々が戻ることを信じ、みんなと一緒に活動ができることを心待ちにしています。
　今年の5月に何度目かの緊急事態宣言が発令され、7月に解除となるまでの間、ボーイ隊ではオンラインでの隊集会を3回ほど実施しました。
　『おうちスカウティング』と銘打った活動が全国（世界中？）のいろんな団や隊で実施されているのを見聞きしていたものの、ボーイ年代でのオンライン活動は少しハードルが高いかな？と当初は思っていましたが、とりあえずはチャレンジしてみようということでスカウトたちにおうちでの手伝いやテーマを決めて英語での発表してもらうなどの事前課題を出し、オンライン集会で披露してもらいました。

意外と？みんなおうちではしっかりお手伝いをしているようで感心させられましたし、小学生のスカウトたちも自分なりに頑張って英作文を作って発表したり、ふだん人前で話すことが苦手なスカウトも自分なりに頑張って取り組んでくれました。将来の具体的な夢などを話してくれたスカウトもいて、日頃の活動では伺い知れないスカウトたちの意外な面を知ることもでき、思いのほかコミュニケーションが図れたのではないかと思います。

3回目の活動では私も自己紹介のプレゼン資料を作成して発表し、リーダー・隊長に聞きたいことを何でも聞いていいよ、ということで様々な質問に答えました。

なかでも印象的だったのは、『隊長をやっていて辞めたいと思ったことはないですか？』という質問でした。

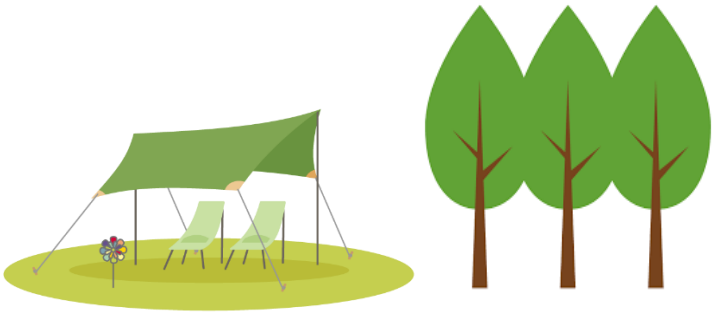
頭に浮かんだのは2年前の1級挑戦キャンプ。設営を指導できる先輩スカウトの参加が少なく、初冬の冷たい雨がふりしきる、強い風も吹く厳しいコンディションのなか、CS 隊から上進してきた現中1の新入りスカウトたちが食テンを風に煽られ、テントを水浸しにしながら必死で設営した思い出深いキャンプです。

せっかく楽しみにしていた初めてのキャンプでいきなり自然の洗礼を浴び、新入りスカウトたちはさぞかし意気消沈してしまうのではと心配しましたし、私自身も正直なところ、寒い雨のなかで何を好き好んでこんなことやってんだろう？というネガティブな思いが一瞬よぎりましたが、スカウトたちはそんな環境のなかで誰一人泣き言を漏らさず、自然のなかでの初めての体験を楽しむように明るく元気に活動してくれる姿をみて、私のほうがスカウトたちに勇気づけられた記憶がよみがえりました。

ボーイスカウトのリーダーなんか辞めたいな、と思っても、君たちが明るく楽しく元気に活動しているのを見ると、辞めたいなんて気持ちは吹き飛んじゃうよ、というような話をしました。（本当です。）

一日も早くコロナが終息して、スカウトと一緒に自然のなかで五感を刺激されるようなキャンプがしたいな、と思う今日この頃です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊



『CS 隊だより －2021年夏 コロナ渦での活動－ 』

CS 隊隊長　甲田　秀行

カブ隊 甲田です。2021年度の活動をふりかえってみると、去年9月の入隊上進式を含め14回の活動を実施しました。ただし、2021年に入ってからは数えるくらいの活動しかできませんでした。
コロナ渦における活動について、常に考えさせられる1年間だったと思います。特に2年間にわたり「夏キャンプ」ができないなんてことを想像できたでしょうか？

私のカブ隊はご存じのように小学生年代2年～6年生までを対象にスカウト活動を行う部門となります。コロナの影響で会社の業務はリモートワークに移行しつつあります。
日本連盟よりも対面活動の延期など通達がありました。しかしながら、この年代のスカウト達にとってリモートでのスカウト活動が本当に有益であるのかということについてずっと疑問なままです。

町田13団だけでなく、特にビーバー、カブ年代でスカウト活動に参加させようと考えるご家庭においては、はやり、自然の中で仲間と共にこどもの成長を願っていると思います。長期的な緊急事態宣言で対面での活動ができなく、残念ながらスカウト活動をやめてしまう仲間もいました。特に2021年度の活動については、キャンプが1度もできず、スカウト活動の魅力や楽しさを十分に伝えることができなかったことも1つの要因とは考えております。2022年度に向けて、どのような形で活動ができるかはわかりませんが、自然の中で楽しいスカウト活動ができればと思います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

『BVS 隊だより』

BVS 隊隊長　原　敏文

ボーイスカウト活動へのご理解、ご協力ありがとうございます。

2021年度の活動を振り返ると、コロナ渦の合間の活動になり、入隊上進式からの活動内容は、LINE で隊集会を行いみんな元気な姿を確認しました。BVS 隊の楽しい活動は、収穫祭（小野路農園クラブ）で団委員長・RS 隊・VS 隊・BS隊・CS 隊各隊の支援を頂き、秋には芋掘りや柿の収穫は竹竿の先端に柿の根本を挟み、くるっと回し取る（田地団委員長の得意技）など季節のめぐみを収穫体験し、春のタケノコ堀りでは竹林の斜面をタケノコの芽を探し求め鍬やシャ

ベルで泥んこになりながら掘り出す姿が印象的でした。他には長ネギ・落花生など収穫などさせていただき、お昼には畑で焼いたタケノコや恒例の豚汁を頂き小野路の自然に触れあった一日を過ごしました。ひなた村でのデイキャンプではみんなの大好きなカレーを調理しいただきました。ごちそうさまでした。

今後の楽しい活動は、ナイトハイク・クリスマス会・高尾山登山・防災センター見学・公園清掃・清川リバーランドバーベキュー大会・収穫祭（春・秋）
次回は種まきや苗植えなど体験・ザリガニ釣り・デイキャンプ野外料理など楽しみですね。これからも子ども達の成長を楽しみ、スカウトが安全安心に活動できるように見守っています。

ビーバースカウトのたのしいかつどうは、「せいかつ」「けんこう」「しぜん」「しゃかい」「ひょうげん」五本柱の活動内容で木の葉しょうシールをきみのあしあとにたくさん集めて10枚になると「こえだしょう（小枝章）」がもらえ、子どもたちが日々たくましくなるような活動内容です。

一日も早く、長期間にわたる非常事態宣言が解除され通常の活動ができるよう願い、皆様がコロナに感染しないで生活できることを願っています。
最後に、「スカウトなかま」を増やそう!!　幼稚園や学校近所のお友達に声掛けしていただきスカウト活動の楽しさを伝えて欲しいと思います。スカウト及び13団発展のために、皆様のご理解とご協力をお願いします。

＜4月に実施したタケノコ掘り
大きいのが収穫できました＞

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

『あれから２年』

RS 隊　西野　颯人

２４ＷＳＪの開催が２０１９年7月２２日～8月2日の１２日間の開催期間だった。このＷＳＪには、１４６の国と地域のスカウトがアメリカ合衆国のウェストバージニア州サミット・ベクテル保護区に集まった。２４ＷＳＪとしては１２日間だったが私がいた隊 B 分団１３隊の仲間とは１８日間という時間過ごしていた。

今思うと、あの時あの仲間と出会ったことで互いに刺激し合ったり楽しんだりして短い期間でも仲間になれたと思う。

全てを回るということはできなかったものの班の仲間とのアドベンチャー巡りやショッピング、隊で参加したアドベンチャーといいなかなか日本でできないことを体験することができた。

２４ＷＳＪで体験したことは今の自分を作ってくれているものだと感じている。その理由は、今大学で学んでいることを本当に学びたいと思うきっかけとなったからだ。多くの外国のスカウトとの交流はさまざまな場面で生きてくるのであろうと思うこともでき、私にとって道標となってくれたようなイベントであった。

今は、世界でコロナ（COVID―19）が猛威を奮っており我々も活動がしにくい状況になっているが、今やれるスカウトとしての活動をしたいと考える。

ＷＳＪが楽しく、そしていろんなスカウトと過ごせるイベントができることを願い、今後いける機会があるスカウトにはぜひ体験してもらいたいと思った。

＜2019年 第24回世界スカウトジャンボリーにて＞

『あれから６年』

RS 隊　井上　雄太

西野君が、前回（２年前）に行われたアメリカでの「世界ジャンボリー」についてまとめてくれた。私は大学受験があり参加することが叶わなかったが、彼の文章から、非常に充実した活動が出来たことを伺える。私も彼に乗っかるわけではないが、前々回（６年前）に日本の山口県きらら浜で行われた「世界ジャンボリー」に参加したことについて記そうと思う。

『ジャンボリーが約５０年ぶりに日本に来る！』

当時中学２年だった私は、この言葉に興奮した。あの全世界のボーイスカウト最大の行事であるとされる「世界ジャンボリー」が日本で開催されるというのだ。私がスカウトであるタイミングでまさかやって来ると思わなかったし、しかもそれに参加できるというのだからそれはそれは興奮していたのである。

そして町田から山口までバスに十数時間も揺られ、会場に到着してもなお、この興奮は冷めなかった。この巨大な会場が世界中の隊のテントで埋め尽くされ、いろんな文化の人と交流できる！しかも日本で！これほど興奮することはないだろう。

「世界ジャンボリー」では、スカウトたちが主役となって様々なアクティビティが行なわれた。ハイキングプログラムでは、道中で出会った外国のスカウトと日本の漫画の話（ジェスチャー）で盛り上がったり、海のプログラムではいろいろな国のスカウトたちとの間で、突然ビーチバレーボール大会が始まったりと、非常に楽しめたと思う。

特に印象に残っているのはワッペン交換会である。これは何かそういうイベントがあったというわけでなく、スカウトたちが勝手に行っているものである。会場内のいたるところで即席の出店のようなものを作り、そこでワッペンを交換し合った。中学２年だった私には外国のスカウトとのコミュニケーションが非常に大変だったが、逆に言語だけがコミュニケーションの手段ではないことも学んだ。

＜ワッペン交換会の井上君。この写真はジャンボリー日本派遣団報告書に使用されました＞

このように私は「世界ジャンボリー」にて、日常生活では体験できない貴重な経験をすることが出来た。是非ともこの体験は後輩諸君にもしてもらいたく思う。「世界ジャンボリー」であるが、２０２３年には日本のお隣、韓国にて開催される予定である。また、「世界ジャンボリー」の日本国内版といえる「日本ジャンボリー」は２０２２年に東京で開催される予定である。現在、コロナ禍において満足のいくボーイスカウト活動が出来ていないことだろう。再びスカウトたちが集えるように皆で団結し、世界中のコロナウイルスが早く収束するよう努力していきたい。

『RS 隊としてのスカウト活動』

RS 隊　怡土　天志

今年 RS 隊に上進することができ、スカウト活動を12年間続けてきてついに最後の隊となった。ベンチャー隊の途中で新型コロナが流行しボーイスカウトも活動を制限されてしまった。それでも感染対策を徹底し周りに迷惑をかけないよう出来ることを探して出来る限りの活動をしている。

５月キャンプや夏キャンプに向けて下見に行った。しかし、どちらも下見で終わってしまい実際にキャンプをすることはかなわなかった。今の状況下ではそうするのが最善だが計画が計画のままで終わってしまうのはとても残念だった。それでも夏キャンプの下見は、今年 RS に上進した自分たちの歓迎キャンプでもあり自分たちで美味しい料理を作って楽しむことが出来た。今回は、焼肉と焼きそばの定番メニューに加えて、ダッチオーブンを使ってスペアリブのコーラ煮込みという作ったことのない料理にも挑戦してみた。肉の煮込み料理にコーラを使うという斬新な料理だが意外にもこれが美味しくリーダーからも好評だった。必要な材料が少なく作る手順も簡単なのでアウトドア料理としても良い料理だと思う。夏キャンプなどで行う BBQ で作る料理はなぜかいつも決まりきった料理が多いので新しいアウトドア料理を開拓していくのもいいかもしれない。

そういう意味でも今回夏キャンプの計画で悩んだのが料理だった。キャンプの活動の中でもコロナの感染リスクが最も高いのが食事の場であり、感染対策を徹底するためには今までやってきたことが出来なくなってしまう。流しそうめんは言うまでもなく危険だし、スイカ割も衛生的に問題がある。大きな鉄板で一度に野菜や肉を焼き取り分ける BBQ もあまりよくない。唯一問題ないのは調理を各々で行う鮎の塩焼きぐらいだった。流しそうめんが出来ないので代わりになる料理を考えなければならないが、アウトドア料理でコロナ的に問題のな

いものは少ない。結局下見キャンプでは各々が気を付けようという事で普通にBBQをした。朝食は個人で作れるホットサンドだった。最初はホットドッグという案だったが、いつもやっている料理で代り映えがないので新しいメニューを考えてほしいという意見がでて却下された。ねじりパンの案もあったが手間的に朝食は向いていなかった。そこで出した案がホットサンドだった。サンドイッチを焼くだけのこの料理だが、そのひと手間を加えるだけで段違いに美味しくなり高級感も増す。面倒な手間もないうえ、意外にもボーイスカウトで作ったことがなかったので朝食として採用された。

そして、自分は、このメニューを考えているときにRS隊の良さを理解した。これが BS 隊の頃だったらサンドイッチのままでいいと文句を言っていただろう。BS隊の頃は美味しい料理など頭になく、いかに楽に作れて片付けが簡単かしか考えていなかった。VS隊だったら手間も少なく美味しいレトルトに頼ってしまっていただろう。しかし、RS隊になりキャンプが辛いものではなく楽しめるものに変化した。食事も制限されている中でも手を抜かずこだわった料理を作るという RS 隊ならではの大人の余裕を感じた。自分自身、上進するまではVS隊とRS隊の違いは、スカウトよりかリーダーよりか程度の違いだと思っていた。しかし、実際はそれだけではない。温泉に行って体をいやしたりこだわった料理を作ったり、いかに自分たちが楽しむことが出来るかを優先して考える余裕がある。それが VS 隊と RS 隊との違いなのだと学ぶことが出来た。そしてキャンプ当日の朝、実際にホットサンドを作って食べたのは自分だけで、他の人は全員焼かずにそのままサンドイッチとして食べていた。いくら綿密に計画を練っていても、コロナのような思わぬ非常事態や当日の気分によって計画は簡単に変えられたり中止になってしまう。そんな世の中の無情さを学ぶこともできた。

『久しぶりのスカウト活動』

BS隊　フクロウ班　竹原　空汰

久しぶりにひなた村で隊集会があった。食テン㈱を立てていたら「先輩、それ違いますよ！」と指摘されたり、それを聞いたリーダーから「後輩に教えてもらうのはやばいんじゃない？」と言われたりした。判っていた気になっていたけれど忘れてしまっていた。少し恥ずかしかった。

コロナウィルスの感染拡大によって、みんなで集まって活動する機会が少なくなった。今年は、僕がスカウト活動でいちばん好きな夏キャンプの中止も決まった。一つ上の先輩たちと夜におしゃべりできなくなると思うとすごく残念だ。

久しぶりに先輩たちと食テンを立てたり、調理したりした。一緒にスカウト活動ができたことがうれしかった。でも、楽しみにしていた火起こしの作業を後輩にゆずり、できなかったのが心残りだった。次回は火起こしがしたい。

(*)食テン・・・ボーイ隊の各班が食事・居住用に設営するフライシート

※(隊長注) 7/4にBVS・CS・BS合同の調理プログラムをひなた村で実施しました。久々の活動でしたが、ボーイ隊のスカウトたちは事前の設営やBVS・CSスカウトの指導、調理など大活躍してくれました。何より素晴らしいのは、彼らはご飯を炊くのがとても上手なんです！おかげで美味しいカレーライスを食べることができました。
なお、当日参加してくれた4人のゲスト全員を新しい「なかま」として迎えることができました！組拡の長谷川さんはじめ、当日アテンドのために参加してくださった保護者の皆さまのご尽力に感謝するとともに、ボーイ隊のスカウトたちが明るく楽しく元気よく頑張る姿を見せてくれたことも入団の大きな決め手となったのではないかと、隊長としてひとり悦に入っています。

＜食テンの下で食事の準備＞

『はじめての班キャンプ』

BS 隊　バイソン班　鷲尾　咲人

今回ぼくは初めて、班キャンプに行きました。そこで思ったことや、感じたことがいくつかあります。

一つ目は、とても自由なことです。なぜかというと、買い物も自由だし、時間も自由だし、何もかも自由なので、とても楽しかったです。特に一番楽しかったことは、買い出しに行ったときです。理由は、予算内だったらいっぱい買っていいからです。そして帰りには、お母さんに内緒で飲み物を買って帰りました。

二つ目は、ご飯が美味しかったことです。まず最初にチーズフォンデュを食べました。でも思ったよりチーズが少なかったです。次に余ったじゃがいもで、ポテトチップスを作りました。塩が効いていて、とても美味しかったです。最後にフルーツポンチを食べました。いろいろなフルーツが入っていて、とても美味しかったです。

ぼくは班キャンプを終えて、最初はイヤだなーと思いましたが、結局は、楽しかったです。

※(隊長注) 4月の緊急事態宣言明けに小野路で班キャンプを実施しました。班キャンプは、すべてのスケジュールをスカウトが計画して、自分たちで食材の買い出しも実施します。自律的にしっかりと活動し、またチーズフォンデュというバイソン班のオシャレ？なメニューにとても感心しました。

＜BS 隊も密を避けてソロテントで活動＞

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

『スカウティング小話　その９ 』

育成会会長　下山田　弘

昭和２０年代にスカウト活動を再開した人達が、地方にキヤンプに行くと、制服姿を見た現地の人から『また戦争が始まったんですか』と言われたという。
昭和３０年代に活動を始めた私は、さすがにそのような事はなかったが『あんたら自衛隊の予備軍か』と言われた事は何回かあった。

ボーイスカウトを正しく認識してもらおうと、昭和４０年代から「新春、日の丸行進」という行事を行なった。数千人のスカウト、リーダーが、国旗、隊旗を先頭に、地区や団の中には鼓笛隊のある所もあったので、演奏しながら、都内をパレードした。沿道の人達からは、最初は奇異の目で見られた。やがて各種の奉仕活動にも参加するようになり認識されるようになる。

今から３０年前、第二次ベビーブームの最盛期を迎え、登録人数も３４万人を超える。町田地区内の各団のカブ隊、ボーイ隊も２個隊編成が当たり前、それから人数は減る一方、今や四分の一以下の８万人以下になってしまった。

しかし長年活動を行って来て、このような時代、社会だからこそ、スカウト運動の必要性は、人数減少とは反比例して高まっていると思う。
その中でも本来のスカウト活動をかろうじて出来ている数少ない団が１３団。
これからも力を合わせ活動を続けて行きたい。

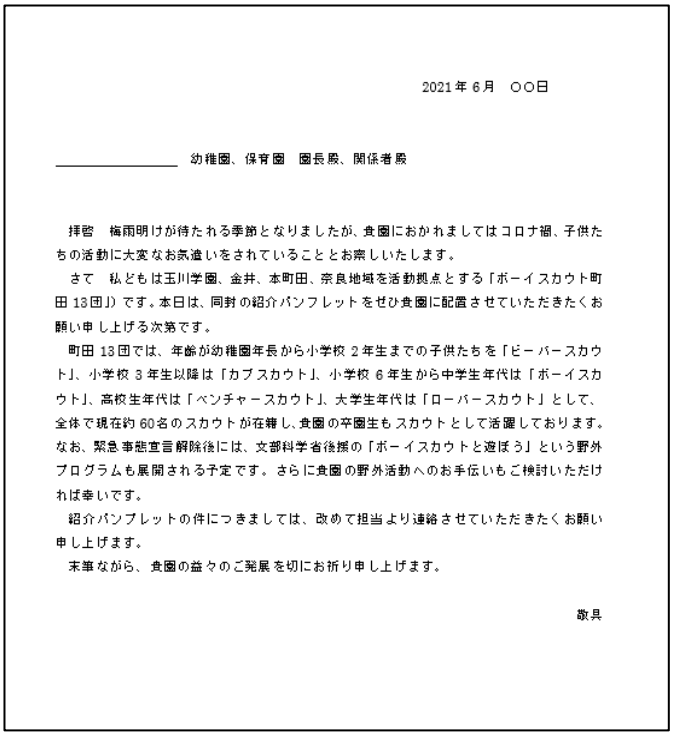
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

入隊おめでとう！

2021年4月4日、カブ隊に **浅香優希くん** が入隊しました。
これから一緒に楽しんでいこうね！

幼稚園および保育園へのスカウト勧誘チラシの配布について

6月に13団スカウトが在籍した14の幼稚園および保育園にスカウト活動への勧誘チラシを配布しました。残念ながら今のところ反響はあまりありませんが、コロナの終息を待って改めて訪問しボーイスカウトの紹介を実施したいと思っています。皆さんでも配布可能な園などがありましたらぜひご連絡ください。



2021年6月　○○日

＿＿＿＿＿＿＿＿　幼稚園、保育園　園長殿、関係者殿

拝啓　梅雨明けが待たれる季節となりましたが、貴園におかれましてはコロナ禍、子供たちの活動に大変なお気遣いをされていることとお察しいたします。

さて　私どもは玉川学園、金井、本町田、奈良地域を活動拠点とする「ボーイスカウト町田13団」です。本日は、同封の紹介パンフレットをぜひ貴園に配置させていただきたくお願い申し上げる次第です。

町田13団では、年齢が幼稚園年長から小学校2年生までの子供たちを「ビーバースカウト」、小学校3年生以降は「カブスカウト」、小学校6年生から中学生年代は「ボーイスカウト」、高校生年代は「ベンチャースカウト」、大学生年代は「ローバースカウト」として、全体で現在約60名のスカウトが在籍し、貴園の卒園生もスカウトとして活躍しております。なお、緊急事態宣言解除後には、文部科学省後援の「ボーイスカウトと遊ぼう」という野外プログラムも展開される予定です。さらに貴園の野外活動へのお手伝いもご検討いただければ幸いです。

紹介パンフレットの件につきましては、改めて担当より連絡させていただきたくお願い申し上げます。

末筆ながら、貴園の益々のご発展を切にお祈り申し上げます。

敬具

チラシ配布先（6月21日現在）

①玉川中央幼稚園　②藤の台幼稚園　③奈良幼稚園　④玉川さくら保育園
⑤カナリア幼稚園　⑥さふらん幼稚園　⑦山ゆり幼稚園　⑧町田保育園
⑨ゆうき山保育園　⑩大蔵保育園　⑪たかね保育園　⑫みどりの森保育園
⑬ききょう保育園　⑭高ヶ坂保育園　（順不同）